

第6回黒島小中学校検討委員会議事録

- 1 日 時 平成29年5月8日(月) 19:00～21:00
- 2 場 所 黒島小・中学校 校長室
- 3 参加者 濱田・大村・松崎・山内・惣田・高田・木下・山崎・戸田
計9名(欠席:牧野・鶴崎・田代・古里) ※敬称略

4 協議事項

(1) 新年度の委員について

- 新年度になり、育友会総会での育友会役員の変更に伴い、委員に変更があった。鶴崎さんは育友会副会長から育友会会長でそのまま留任。新しく育友会副会長に就任した、田代輝美さんと山内雅美さんが新しく就任。
- 大村靖さんは保護者代表として留任していただくと共に、引き続き会長もしていただくこととする。

(2) 校章について

- 校章は1つに統一するという方法もあれば、2つという方法もあり得る。
- 視察した高知市立土佐山学舎・高知市立行川学園・大町ひじり学園・西海市立ときわ台小学校・壱岐市立郷ノ浦中学校・富山県魚津市立よつば小学校の校章募集について委員で確認をした。
- 土佐山学舎は開校準備委員会が別途委託して全国にホームページなどで募集。最優秀賞者には感謝状と記念品贈呈。5点を入賞、1点を最優秀賞。
- 行川学園は、昭和61年度から行川小中学校という併設型小中一貫校。20年以上前のことで詳細は不明。
- 大町ひじり学園は、小中学校それぞれの校章がある。小中学校としてシンボルマークを中学校美術部及び卒業生が案を作成。その後、小学校3年～中学校3年生まで投票し、その後開設準備委員会で協議・決定している。
- 西海市立ときわ台小学校は、亀岳小と白似田小の統合校。現在公募中。全て西海市教育委員会総務課に依頼して市教委が主となって進めている。
- 壱岐市立郷ノ浦中学校は平成23年4月。ここも壱岐市教育委員会に依頼。
- 富山県魚津市立よつば小学校は、公募ネットというオンラインサービスで応募。教育委員会の総務課が主体。
- 校章が2つという場合は校旗も2つ必要になる。卒業式等でのステージにも2本飾る。中体連など様々な行事の入場行進にも2本持つ必要が出てくる。
- 黒島小学校の8つの波は8つの地区を表し、内側の6つ円は、6学年を表している。

黒島中学校の校章の花はハマユウで、ハマユウの花のように、清い心を持ち、皆で力を合わせ、心のつながりをいつまでも強く持ち続けてほしいという願いが込められ、地色のこげ茶には、黒島の子どもたちのたくましい肌色から、何事にもくじけない人に育ってほしいという願いが、「中」の字の上下の旗は、社会人となった時に、それぞれの旗印を挙げ社会の役に立つ人になってほしいという願いが込められている。

- 実際、黒島小学校の校章や黒島中学校の校章の意味を初めて知った。
- 校章については、学校名や校歌ほどの思い入れはないのではないかな。
- 学校名も黒島小中学校という要望を市教委にしており、校歌も小中学校とも残したいという意向である。校章は新しく決めてもいいのではないだろうか。
- 校旗が2本であるとか、体育館ステージの上部の幕や演台に校章が2つというのは違和感があるのではないかな。
- 校章が一つであれば、体操服を小学校から中学校へ変えずに継続して使い続けることができる。(現在は小学生の体操服には簡素化された校章がプリントされ、中学生も同様。現在小中学校別々の校章なので、体操服は小学校から中学校へ進学する際に買い換えている)
- 小学校の校章と中学校の校章を合体させたようなデザインがいいのではないだろうか。
- 児童生徒に新しい校章を募集してみてもどうか。
- ハマユウという花の意味(島の外から来て根付き、たくましく生きる花)を知ると、校章にハマユウの花は残したい。また、はまゆう坂という名前もあるのに、ハマユウの花を知らない子ども・大人も多い。
- 校章なので複雑になりすぎないようにしたい。
- 体操服の買い換え等、保護者負担を考えると、校章を統一することに対して町民で理解を示さない人はいないと予想する。
- 公募ネットという無料のオンラインサービスを使って、小中学校の校章を示してこれを生かして作ってほしいということを依頼してはどうだろうか。
- まずは児童生徒に募集をして、その際に小中学校それぞれの校章とその意味を知らせ、そのうえで、デザインを考えてもらってはどうか。また、そのデザインを原案として、卒業生やデザインについて勉強をしている大人の目で手直しをしてもらうのはどうだろうか。採用者には記念品を渡したい。
- デザインの道に進んでいる本校の卒業生や知り合いもいるので、頼むことができる。
- (結論として)児童生徒に募集し、デザインを考えてもらう。それを集約し、本委員会で決定する。それを元に、大人の目で修正をしてもらうということにする。採用された児童生徒には記念品を渡す。金額は児童生徒に渡す記念品は常識の範囲(3,000円~5,000円程度)で。

(3) 校歌と愛唱歌について

- 校歌は小中学校とも残すことは以前の協議で確認している。
- 愛唱歌は作る意味や作った後の歌う機会を考えていかなければ、作ったが歌わないと

ということがないようにしなければならない。

- 作った後、どのようにして町民へ浸透させるかが課題である。
- 高知市立土佐山学舎は校歌を依頼して作ってもらったところ、できあがった校歌があまりにもポップ調すぎて校歌には不向きであり、併せて以前の小中学校校歌を残したいという思いもあり、愛唱歌とした。
- 以前「はまゆうの歌」という曲があったが、1・2回歌っただけで廃れてしまった。
- 落成式で歌うことも大切である。
- 何十万円・何百万円という費用を使う理由や価値が見いだせない。そのような費用があるなら他にもっと有効に使った方がいい。
- 黒島小中学校の愛唱歌ではなく、黒島の愛唱歌であれば、学校だけではなくウェルカムハウスなど、様々なところで流すことができる。人の耳にいつも入れていかなければ歌は根付かない。
- サンディトリップという地元佐世保の歌手がいて、「あなただけの歌を作ります」という、ふるさと納税の返礼品の一つとして50万円で請け負っているということが長崎新聞に掲載されていた。観光名誉大使も務めているとのことなので、このことを利用できないだろうか。
- 落成式にサンディトリップに来てもらって歌ってもらうこともいいのではないか。
- （結論として）愛唱歌は作る。しかし、黒島小中学校の愛唱歌ではなく、黒島の愛唱歌。教育委員会や観光物産振興局に依頼していきたい。サンディトリップに作ってもらいたい。

(4) あり方検討委員会便り第7号

- お便り第7号は第5回あり方検討委員会の様子と、校名募集の結果を掲載したい。

(5) 第5回あり方検討委員会議事録

- 第4回までの議事録はすでにホームページにアップして情報を公開している。
- 今回示した議事録を、今回もホームページで公開する。
- 委員の皆様には議事録を読んでもらうべき、発言した意図と違う内容が記載されている場合は遠慮されずに伝えてほしい。ちなみに、発言者は載せず、発言者が特定されないようしている。

(6) その他

- 以前立ち消えになった特認校制度について
- 児童生徒数の今後の予想推移を見てみると、平成30年度には小学校が1学級減。つまり小学校教員が1名減となる。数年後には中学校も1学級減で、中学校教頭も減となる。そして平成40年度に児童生徒がいなくなり、休校になる。しかし、その数年間に運動会ができなくなる。今のうちから学校が開いていないと、児童生徒の減少に歯止めはかからない。
- 転入した児童生徒・受け入れた学校の児童生徒の不安について、実は2年前に黒き小学校に小学校5・6年生が交流を目的に来校している。その際、事前に質問事項をまとめ黒木小学校に送付し回答をいただいていた。その資料を見ていただく。実際、度

の子どもが元からいる子どもでどの子どもが新しく来た子どもかはわからなかった。
また、大村市は市の施策として、黒木小学校のすぐ近くに住まいを建て、黒木小学校に通うことを条件に格安で貸しているとのこと。

- 黒木小学校は、地域から学校を無くさないために地域が一丸となって取り組んでいる。黒島はフェリーが必要な離島部であるため、黒木小学校とは状況は違う。
- 第1回の協議でも行ったが、子どもだけを黒島に置いて学校に通わせることは反対であるが、孫留学や、親も一緒に来てもらい家族で黒島に住んでもらうことはとてもありがたいことだと思う。
- 島に学校を残すためにも、行政と一緒に高速船を出してもらって子どもを通わせることや孫留学や島留学などを積極的に行うこと、学校は門を開いているという状況を作っておくことが非常に重要ではないだろうか。
- 要望書提出時に西本教育長が11億というお金を使って立派な校舎は作ったものの、子どもはいないというのはできるだけ避けたいというような発言をされていた。
- このような受け入れ制度は小学校だけでなく中学校でも実施・継続してほしい。そして、子どもが卒業するまで、できれば子どもが中学校を卒業してからも保護者にこの黒島に残ってほしい。
- 「市長おじゃまします」や「市政懇談会」があるときにも要望してほしい事項はたくさんあると思うが、これからの子どもたちのことを最優先に意見を述べていただけるとありがたい。
- 次回の会では児童生徒へ依頼する、校章募集のチラシなどについて検討したい。

以 上